

GISで考える未来の長野県

～人口減少下の持続可能な地域づくり～



しあわせ信州

長野県建設政策課/都市・まちづくり課

1.背景

信州未来共創戦略が策定される

- 人口が減少すると、すでに問題となっている担い手不足のほか、地域コミュニティの弱体化、医療・福祉・交通・物流サービスの低下、道路や上下水道といったインフラの維持や行政サービスの提供が困難となることなど、社会のあらゆる分野に影響が広がることが予想される。

- 約150回の県民との意見交換を経て、2050年の長野県のありたい姿を描き、今から取り組むべきことをまとめた「信州未来共創戦略」が策定された。



2. 進行する人口減少

長野県人口の将来展望

現状のまま推移すると2050年には160万人、2100年には80万人を下回る

- ▶ 人口減少対策と同時に、「人口減少下においても安心・便利に暮らせる持続可能な生活圏」を形成することを目指すことが必要

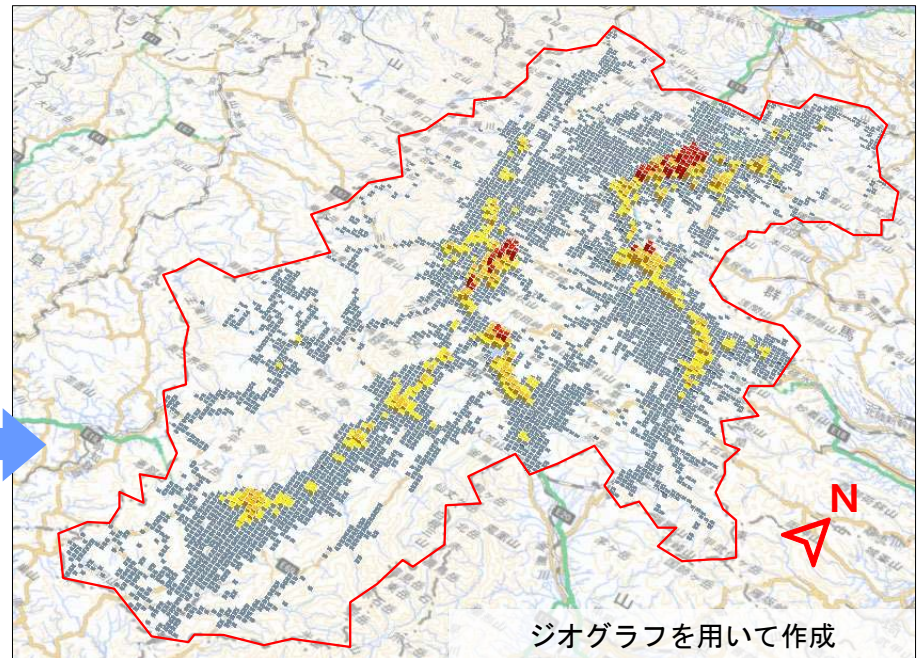
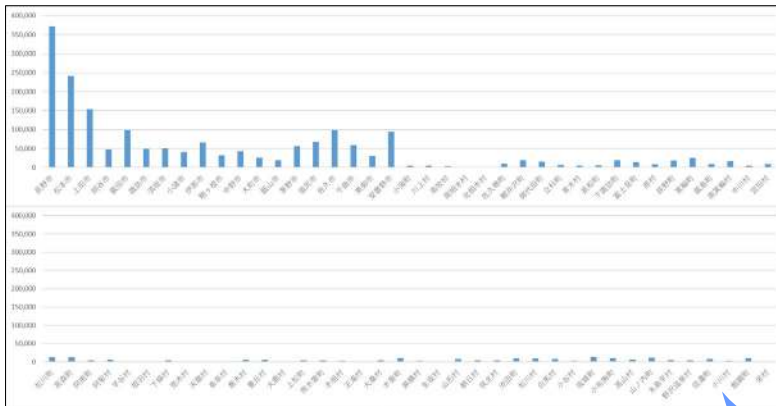


出典：2020年まで：国勢調査（総務省）
2025年以降：長野県企画振興部推計

3.GIS活用による可視化

現状を地理的に把握

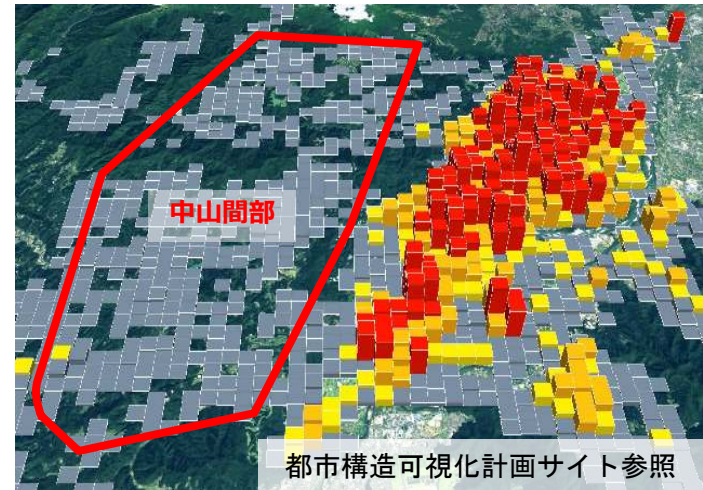
- ・長野県は南北に約212km、東西に約120kmと、縦に長い地形が特徴。77の市町村で構成されており、市町村数は北海道に次いで全国2位。隣接県は8県で全国最多。
- ・広大な県土のため、人口減少下の将来の長野県の姿を考えるにあたっては、GISを活用することで現状を地理的に把握していくことが重要。



4.可視化した課題

中山間部は特に人口の減少が著しい

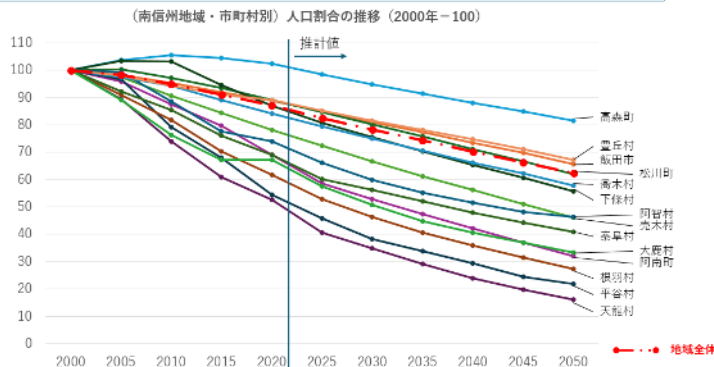
- 2050年には、人口が2000年と比較して20%を下回る自治体も
- 中山間部では特に人口減少が顕著
- 人口の多い自治体でも同様の傾向
 - ▶ 中山間部のまち・むらづくりを考えていく必要がある



南信州地域人口の推移

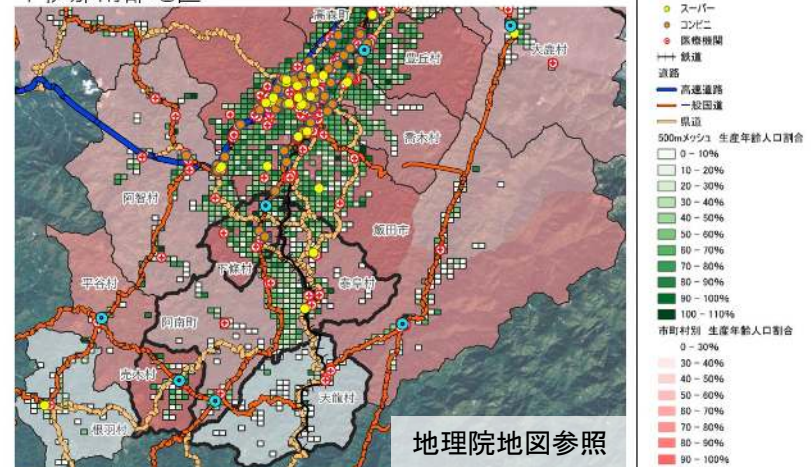
南信州地域市町村別の人口推移及び予測

○2050年に20%程度の減少にとどまる市町村がある一方、80%以上減少する市町村も



出典：国勢調査（総務省）、将来推計人口（国立社会保障・人口問題研究所）

下伊那南部地区



5.活用事例

市町村との意見交換に活用

- ・ 総人口、生産年齢人口の推移やインフラ、民間施設の位置等をGISにより可視化し、市町村との意見交換資料に活用
- ・ 今後のまちづくり、むらづくりについての議論を行った。



6. 今後について

活用の効果と課題

【活用の効果】

- ・ 研修で学んだQGISを活用することにより、人口の増減が「どの場所で」起こるかが可視化され、市町村との意見交換に役立った。
- ・ まだまだ初歩段階。今後は人口減少だけでなく、それに伴い変化することやインフラ、民間施設など様々なデータを収集し、今後の検討に活用したい。

【課題】

- ・ 県として広域的に考える際には、詳細さが逆効果となってしまうこともある。
 - ▶ 可視化する事項によって、データの粒度を変えることや、GISを選択しないことも重要。
- ・ PCのスペックによっては使用に適さない場合も…
 - ▶ 様々なGISを環境・用途に応じて活用していく必要がある

令和8年で長野県は誕生150周年！

